

## 洋書輸入協会会報

VOL. 10

NO. 11

(通巻 115 号) 昭和 51 年 11 月

## 理 事 会 報 告

9 月 27 日 (月)

- (一) 公正取引委員会審決実施に伴う措置について討論。  
新聞広告の協会案および協定破棄を周知徹底させるべき顧客リストの協会案を決定。

(二) 「洋書まつり」予算について検討。

(三) 通関委員会報告。

9 月 16 日通関協議会の席上、協会員中 2 社が関税定率法第 21 条関係のものを輸入しているが、こういう行為は事後通関制の根拠を失わせることとなるので、十分注意せよとの指摘が、東京外郵税関からあった。なおアウトサイダーも含めた事後通関制について税関から希望がのべられた旨の報告があった。

10 月 11 日 (月)

- (一) 7、8、9 月分収支計算・予算対比表の検討。  
(二) 公正取引委員会審決実施に伴う諸問題につき討論。経費についてはいくつかの案が提案されたが、けっきょく

総額約 250 万円を特別会計のとりくずし約 210 万円、会員(賛助会員を除く)からの会費 1 カ月分の特別拠出約 40 万円でまかなうという理事会案を決定、広告を掲載する 2 紙に、「毎日新聞」「日本経済新聞」を決定、決定破棄の理事会を 10 月 26 日、またこの問題について会員の理解と協力を仰ぐため、同日午後臨時総会をひらくことに決定。また特定顧客に周知徹底させる郵便物は配達証明ではなく、簡易書簡でよいことになった旨報告された。

10 月 26 日 (火)

- (一) 総会の議事運営について協議。  
(二) 公正取引委員会の指示により 30 校追加された顧客リストを決定。  
(三) 審決に示された 3 回の理事会での換算率についての決定、および小額本ならびに主要国以外の換算率についての決定を破棄する理事会議事録を承認。

|                                   |                                               |                              |
|-----------------------------------|-----------------------------------------------|------------------------------|
| 理事会報告…………… 1                      | 外国出版社の紹介 No. 46 …… 6<br>(Editions du Griffon) | 通関統計…………… 7                  |
| 1976 フランクフルト国際書籍<br>視察旅行報告…………… 2 | 海外ニュース…………… 6                                 | 総代理店ご案内…………… 7               |
| 古都ハイデルベルグ…………… 4                  | 来日外人名簿…………… 7                                 | 広告…………… 8<br>(アカデミア・ミュージック輪) |
| Book Review No. 39…………… 5         | 事務所移転のご案内…………… 7                              |                              |

# 1976フランクフルト国際書籍展視察旅行報告

三洋出版貿易 崎 河 崎 広 人

## 1. 日程及コース

| 日次 | 月日    | 地名               | 現地時間                    | 交通機関           | 備考                            |
|----|-------|------------------|-------------------------|----------------|-------------------------------|
| 1  | 9・14火 | 東京発              | 21:50                   | LH651          |                               |
| 2  | 15水   | フランクフルト着         | 08:00                   |                | 市内視察                          |
| 3  | 16木   | フランクフルト          |                         |                | 「フランクフルト国際書籍展」視察              |
| 4  | 17金   | フランクフルト          |                         |                | 「フランクフルト国際書籍展」視察<br>ハイデルベルグ紀行 |
| 5  | 18土   | フランクフルト発<br>ローマ着 | 10:30<br>13:15          | LH290          | 自由研修                          |
| 6  | 19日   | ローマ              |                         |                | 市内視察                          |
| 7  | 20月   | ローマ発<br>ジュネーブ着   | 08:30<br>09:30          | SR611          | 自由研修                          |
| 8  | 21火   | ジュネーブ            |                         |                | シャモニ紀行                        |
| 9  | 22水   | ジュネーブ発<br>ロンドン着  | 12:00<br>13:50          | BE575          | 自由研修                          |
| 10 | 23木   | ロンドン             |                         |                | 市内視察                          |
| 11 | 24金   | ロンドン発<br>パリ着     | 10:40<br>12:50          | AF845          | 自由研修                          |
| 12 | 25土   | パリ               |                         |                | 市内視察                          |
| 13 | 26日   | パリ               |                         |                | 1.ベルサイユ紀行<br>2.ゴルフ紀行          |
| 14 | 27月   | パリ発<br>フランクフルト着  | 07:30<br>08:40<br>10:50 | LH111<br>LH650 |                               |
| 15 | 28火   | 東京着              | 13:55                   |                |                               |

Bコース自由研修

## 2. 参加者名簿

本橋鍵次 / 矢代源司、矢代光江 武蔵大学 / 松浦隆夫  
 崎ミロブックスサービス / 唐沢広憲 (株)ゲーテ書房 / 妹尾啓介  
 (株)聖文社 / 筑柴義男 (株)建帛社 / 岡本梅枝 / 松谷文子  
 アカデミアミュージック(株) / 中村光伸、前田敏雄  
 ブックマン(株) / 徳川静子、渡辺重美、高橋邦夫 日本洋書販売配給(株)  
 / 鈴木ヨリ 織田有(株) / 河崎広人 三洋出版貿易(株)  
 / 土屋健昭 日本交通公社(添乗員) / 向山坦子 第三書房  
 / 金子英夫 (株)オリオン / 内田淳一 (株)東亜ブック  
 / 嶋田千秋 嶋田(株) / 高橋正男 (株)南江堂 / 福本和子、  
 波田野久男、福本書院。

## 3. 見てある記

台風17号の襲来で新幹線が連休、関西方面からは前日又は当日飛行機で羽田集合、昭和51年9月14日 LH 651 便にて9:50出発。アンカレッジ、ハンブルグを経て、9月15日8:00ライン・マイン・フランクフルト空港着。

9月16日朝、バスをチャーターしてフランクフルト国際書籍展 (Frankfurter Buchmesse) の会場に入り、場内を巡回する無料電気自動車で、それぞれ見たいと思うホールを目指して活動を始めました。世界の出版社が参加している国際書籍展であるだけに、先ずその出品社数と展示冊数の質量感に圧倒されました。たくさんのホールに分れたすべてのブースを見て歩くことは、とても出来ない相談で、専門取扱書籍を中心にするか、あらかじめ会談時間を予約している訪問先を優先するかで、それぞれの活動方針を立て、場内に分散しました。ブースには次々と私達になじみの深い出版社が並んでいて、又初めて聞く出版社名も数多くあります。試みにホール"5"のブースを丹念に歩いてみることにしました。最初の内は、展示されている新刊書など手にして、カタログ収集をしていましたが、正午までにこのホールの1/4程しか廻れず、昼食もそこそこに、午後は文字通り駆け足でカタログだけを無理矢理かき集め、手さげ袋はいっぱいなり重くて困惑いたしました。夜は夜で、市内のホテルで開催された出版社のレセプションに出席し、知った顔の少ないことで、ちょぴり寂寞感を味わいました。

9月17日、有志でハイデルベルグを訪れましたが、ハインリッヒ王子と美少女ケティの悲恋の古都も、今では街中の広場でヒッピーまがいの学生がたむろし、私達を見ると「ヘイ！カン・フー」と揶揄する現代風なものでしかありませんでした。

9月18日ローマへ移動、19日市内観光。バチカン市国のサン・ピエトロ大寺院の壮麗さに目を奪はれ、映画ローマの休日で名高いスペイン広場やトレヴィの泉は、期待していたものより貧弱で感動を呼びませんでした。カタコンベ、



カラカラ大浴場跡、パンテオン、そして思索の道が曲りくねり、はるかにテイトウスの凱旋門を望むフォロ・ロマーノの古代遺跡を見ると、石の文化の偉大さを感じました。まさしくローマは、古代と現代の同居する街であります。

9月20日ジュネーブへ移動、21日シャモニに入りました。エギユ・ド・ミデイからの景観はまさに絶景。展望台から見るモンブランの女性的な丸い頂上と、一転して男性的なアイガー、はるかにマッター・ホルンを望むアルプスの山塊は、桁はずれに雄大で豪壮でありました。

9月22日、小雨でけむるロンドンへ移動、23日市内観光。ロンドン塔のブラデイ・タワーのくすんだ土色の壁や、羽根を切られた鳥にヘンリー八世の血ぬられた歴史を想い、パッキンガム宮殿前広場での衛兵交替を見ました。金モールの制服の衛兵の行進は、現代ばなれがしていても楽しく、女性騎馬警官の存在も珍らしく感じました。映画エリザベス女王戴冠式で見た通りの、灼爛豪華なウエストミンスター寺院に入り、床の有名人の墓所と、歴代の王達の棺に、大英帝国の歴史の永続性を見ました。

9月24日パリへ移動、25日市内観光。ノートルダム寺院からルーブル美術館に入り、ミロのビーナス像や、モナ・リザのあの謎の微笑に再会しました。モンマルトルの丘に登り、サクレ・クール寺院の背後の街角に、ユトリロの世界が今もあることを知りました。コンゴルド広場からシャンゼリゼ通りと凱旋門、そしてシャイヨ宮とエッフェル塔。ここでも期待通りの感動を呼ばないもどかしさを感じます。9月26日一行は二つに分れて、一つはベルサイユ宮殿見学、一つはゴルフ・プレーに興じました。郊外の高速度道路を車でとばせば、深い緑とその中に点在する、まるでペローの童話の世界を思はせるような家々のたたずまいは、私達の心をなごませてくれました。

9月27日、オルリー空港発7:30、フランクフルト乗替えLH 651便にてハンブルグ、アンカレッジ経由、9月28日13:50羽田着。

#### 4. 思ったこと、感じたこと

フランクフルト国際書籍展では、滞在日数の足りないことが致命的でありました。(Aコースの場合)全ホール・ブースを廻ることは出来なくても、希望するブース訪問の十分な時間が欲しかったと思います。次回からの旅行では、ホールとブース訪問の綿密な計画を立てておく必要性を感じました。

今回の旅行について、協会加入者の参加の少ないことを残念に思いました。特に大手同業者からの参加の無いことは、視察旅行団の権威づけが出来なかったのではないかと

も思います。

各国の観光計画も、計画としてはまことに見事で、旅行社の努力には感謝するとしても、その計画が余りにも過密でありすぎなかったかと思います。市街地名所旧跡を目的としたたてまえの観光どころを離れて、時には無目的な田舎旅行もかえって旅情をそそるものではないかとも思います。

今回の旅行を通じて、一般的に云って、満ちあふれた日本、贅沢に慣れた日本人を痛感しました。ローマやパリを走る自動車の貧しさはどうでしょうか。確かに私達の木の文化とは異質の石の文化に立脚している以上、数百年来の建物に住み、ガレージの設備も貧弱なことや、車検制度がないことにも起因しているのですが、私達から見れば軽自動車クラスの小型の自動車が、それも塗装はお粗末で、ボディは傷だらけ、ひどいのになるとドアやボンネットの無い車が現実にも道路を走っています。大型の排気容量やデラックス仕様をと、消費者の欲望が増大している日本の自動車事情と比較して何と質素であることでしょうか。ローマやパリの四ツ星のホテルに、テレビはありません。ジュネーブやロンドン、フランクフルトには、テレビはありますが白黒で、放送局は2〜3局しかありません。ところが私達は一日早朝から深夜まで、しかも6チャンネル以上、その上90%以上がカラーテレビ受線機を備えています。又パリでは、アメリカ映画「パリー・リンドン」を観るために、土曜日午後9時頃何百メートルも歩道で並んで待っています。パリでは映画は斜陽産業ではないにしても、これは私達の生活の中では、全く想像も出来ないことだと思います。私達は余りにも恵れすぎた世界に住み続け、その環境に慣れすぎているのではないのでしょうか。現在の生活を「文化のあふれているところ」と考えるのは誤った認識であって、それはまさしく文化ではなくて、物質の過剰にすぎないと思います。今こそ私達は、もう一度私達の周囲に目をやり、過剰な物質文明を批判して、根源的な文化の育成のために努力しなければならないと思います。このことはただ概念的な文明批評だけではなくて、昨日・今日・明日の私達の日常の仕事にも直接的にむすびつくものだと思います。

#### 5. あとがき

この旅行は、ヨーロッパ駆け歩きではなくて、文字通り全力疾走旅行でありましたが、一件の事故もなく、参加者全員の良識と友情によって、まことに楽しい旅行でありましたことを、秘かな誇りといえます。

最後に、この旅行についていろいろと御協力を頂きました皆様に、深い感謝を捧げます。

## 古都ハイデルベルグ

近年西ドイツのフランクフルト市で開かれる書籍見本市は、洋書業や出版業に携わる人にとってすっかりお馴染みとなり、この時期に西ドイツ国内を旅行する人の数は年々増加しているようである。

フランクフルトは歴史的にはドイツ最古最大の都市であり乍ら、第二次大戦ですっかり破壊されそして再建された街であるから新しい建物が多く、滞在していても何となく落ちつかないのは仕方ないところ。

フランクフルトから南へ80キロ余りの所に静かで美しい古都、ハイデルベルグがある。私は、西ドイツへ出かける知人にここを訪ねるように強くすすめるのがクセである。その理由は、この街全体がわれわれ日本人に対して、それはあたかも京都や奈良を訪れている時の、うずくような懐かしさを与えずにおかない。恐らく、われわれは自分の国で常日頃古いものを見慣れているせいか、よその国で古いものに出くわすと大へん親しみとなつかしさを覚えるという習性があるのだろう。

この街には、13世紀以来ドイツ人が守り続けて来たハイデルベルグ大学、15世紀に建立された聖霊教会そしてこの街のシンボルとなっているドイツルネッサンス様式の古城。すりへった石畳が続く裏通りの町並、その町を二つに割って流れるネッカー川、ライン川から溯って来るオランダの気船、夕日に映えるレンガの橋脚等々、どれもこれも絵ならざるはなしといった具合である。しかし、土地の人が何にも増して誇り度いのは1386年の創立になる大学（今は郊外に移転中）を中心に、数世紀にわたって全ドイツの学芸のメッカとして続いて来たことであろう。かの有名な

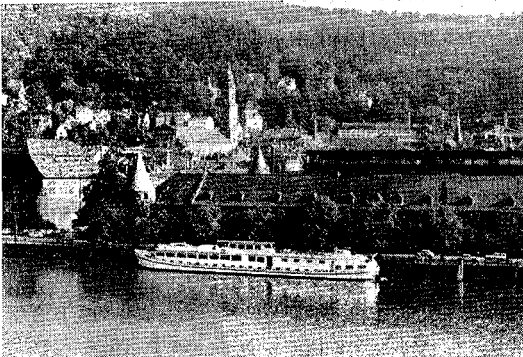
マックス・プランク研究所もここにある。だからこそ、ブックビジネスはここが発祥地ですよといいたいただろう。たしかにハイデルベルグとフランクフルトを結んだ地域には多くの出版社がある。Springer-Verlag もそのひとつ。

そしてまた詩人、作家、芸術家も多い。この土地に住む知人がとっておきのニュースだかと教えてくれたところによると、不世出の大指揮者といわれたフルトヴェングラーは、遺言によってこの町に埋葬されているとのこと、しかもそのことはドイツ人でさえ知る人はまれで、墓の場所は自分で探して下さいと。

終りに蛇足をひとつ：この町に来たら話題にしない方がよい話題がある。それはマイヤーフェルステルの小説「アルト・ハイデルベルグ」についてである。日本で出版されている旅行案内書には大い『王子ハインリヒと可憐な少女キティとの悲恋うんぬん』などとあるらしく、ついドイツ人に向けてこの話をしたが、これを聞く土地の人は大い顔をしかめて「わが町とは全く無関係でして……」とシラケるからご注意。ご丁ねいに、映画の場面をもち出すなどは教養を問われること必定。いわば、長崎を訪ねてピンカートンとお蝶夫人の話をして喜んでるヘンな外人がコッケイなのと同じであろう。

とも角、あわただしい海外出張中に一日ここ古城なるハイデルベルグを訪れ、心を静めてはいかががでしょう。

(H.K. 記)



## 「ライブラリアンのためのロシア語」

GPMウォーカー著 亀山芳子訳  
 監修 日本図書館協会情報管理委員会  
 ナウカ株式会社刊 1976年8月10日  
 A5判 108ページ 定価 2,900

今日、特に平均的大学図書館員が多様な言語にわたる資料を扱って暮すのはごく当り前のルーチンである。しかしながら、英仏独語資料の見当づけはまだしも、ロシア語となるとその文字の形から取扱いにやや消極的な姿勢をとり勝ちになることが多い。

無論、図書館員一般の「特殊外国語」修得への意欲は高く、そのエネルギーは当該大学において文学部の一般教養課程の外国語講座の聴講生となったり、教官に「特別講義」の道を開かせるなどの形で発展してもいる。そして事実これらのプログラムは＜定着＞している。しかし修得にかかる時間も最長1年ぐらいいであるのに反して、残念ながら現場では殆ど役立つことがないのが実情である。

教養語学で「机の上には花瓶があります」とか「通りを歩いていたら旧知の一人に会った」などの語彙は、図書館員が日常、当該外国語の図書上の著者名や書名、または版次や出版事項を＜正しく＞読みとったり、アナウンスメントその他のツールで図書や雑誌を注文または予約したり、「雑誌予約更新通知」を＜読みとる＞ことには殆ど効果がない。ロシア語図書の巻数などは概して数詞で書かれているので、キリール文字の図書には増々アレルギーを起しそうになる。

図書館員には、個有の＜修得法＞が必要なのに違いない。そのプログラムは、当該言語図書・雑誌の書誌的特性、出版特性、最少限の文法特性、といった形での構成が望ましい。ロシア語は図書館の排列では翻字されるので、その翻字の仕方もありこまれると都合がよい。

このウォーカーの書は、正にそういった図書館員の特殊外国語の修得法のアレルギーを排した見事な本である。彼はいう「本書は日常の仕事の中でロシア語資料を能率よく取扱うことが必要だが、ロシア語の十分な知識

を必要とする資料の選択や分析にはたずさわらないような図書館員や情報管理をしている人達を対象としている」そして内容は、(1)ロシア語コース、(2)翻字、(3)目録作業、(4)書誌と参考図書、(5)資料収集、(6)東欧諸言語の同定、(7)語彙、の全7章から構成されている。(1)では事項毎に練習問題と解答が用意され、自学自習できる形に組まれている。(5)にはロシア語図書の出版特性が簡にして要を得た説明でもりこんであり、交換では大概のロシアの大きな図書館は「等価交換」を望んでいる、といったことも書いてある。また例題として出てくる語彙も社会主義国に暮す人間が最少限知っていねばならない程度は拾ってある。

本文は語彙リストの部分を除くと70頁足らずなので、英語知識の背景を持つ者なら著者ウォーカーの巧みな説明で一氣に通読も可能であるが、一つの読み方として、ロシア語コースを終えたら、後は必要な章を必要に応じて読み進めるのも効果的かと思われる。おそらく本書の最大の有用性は30頁に及ぶ語彙リストに求められると思うが、この日本語版ではすべてストレスが付される配慮もされ、日常ロシア語資料を処理するには不足はない。練習問題も原著では問題のすぐ後に解答がついているが、後に回されたりしていて単なる日本語版ではない配りが見られるのも好ましい。訳文も平明で無駄がなく、9ポイントの活字も読み易さを図っていて、図書館員ばかりでなく、ロシア語資料を扱う書店の研修コースとしても恰好の書と思われる。

なお、原著は1973年ロンドンのビングリー社から出され、ウォーカー氏はオクスフォードのボドリアン図書館（オクスフォード大学図書館）スラブ東欧部に身を置く人である。

丸谷 治 一（東京大学総合図書館）

## Editions Du Griffon (スイス)

湖と山で世界的に有名な国スイスその片田舎（又シャテル）にある出版社 Editions Du Griffon は 1944 年設立された。

社長以下、少数社員ではあるが、なかなか立派な美術書を多数出版している。社長の Mr. Marcel Joray の話によると、世界各国に輸出をしているとのこと。

特にこの出版社は Modern Art の出版物に重点を置き、今後共、愛好家の期待にそえる美術書を多数出版して行く事でしょう。

我々の同業社でも何社かは Griffon 社との間に取引がある。

出版点数にしても 1 年間に 5～8 点位しか出版しない主義である美術書の場合、とかく有名な画家の画やバロック、ルネサンス時代の物が多いが、この出版社は、同じ美術書でも一風変わった造形的な物を出版しており、まさしく Modern Art その物の出版である。

筆者もこの出版社に大変興味があつたのでスイスに行った折、この出版社を訪問した。社内は塵一つない程きれいなので一瞬びっくりした。さすがスイス人であろうきれいな好きなお国柄をしのばれる。このようなかんきょうの元でこそ、あのすばらしい美術書が出来るのも当然の事と思えた。

（ミロブック 鈴木）

## 海外ニュース

### 「C I S がグリーンウッドを買収」

Congressional Information Service, Inc. (CIS) 社は、Williamhouse-Regency, Inc. の一部門であった Greenwood Press を買収し、新たに、同名だが、Greenwood Press, Inc. を設立し、C I S 社の子会社とした。

これまで Greenwood Press は学術書のリプリントやオリジナル、およびマイクロフォーム出版で知られ、わが国にもなじみが深い。今後とも現所在地で同様の出版活動が続ける。前社長 Robert Hagelstein 氏は、新社の取締役社長として残る模様。なお、会長には C I S 社の社長 James B. Adler 氏が就任した。

CIS 社は米国政府出版物の索引化やマイクロ出版で知られている。この両社は一応別個の会社として営業するが、今後とくにマイクロ出版の製作・販売は統合されよう。

今のところオーダーや入手の方法は従来通りであり、変更はない。

（Publishers Weekly, 10 月 4 日号より）

### 「CBS がフォーセット社を買収か」

CBS/Publishing Group の社長 John D. Backe 氏と、Fawcett Publications, Inc. の社長 Roger Fawcett 氏は、去る 9 月 8 日、CBS 社が Fawcett 社を買収することに原則的に同意した旨を発表した。

Fawcett 社は 1919 年創立、Gold Medal や Crest という名のペーパーバックや Woman's Day などの雑誌の出版で知られ、年商約 1 億 2 千万ドルとのこと。

CBS グループは Holt, Rinehart and Winston や W. B. Saunders はじめ国の内外の出版社を傘下に収め、年商 2 億 3 百万ドルであるが、ペーパーバック部門は弱体であったので、Fawcett 社の買収によりこれの強化をはかったものである。

（Publishers Weekly 9 月 20 日号より）

### 「英国出版社の決算結果」

Associated Book Publishers, Ltd. の 1976 年 6 月 31 日までの本年前半の結果は好調のようである。売上げは前年同期の 8 百万ポンドから 10.3 百万ポンドに上昇、課税前利

益は 361,000 ポンドから 771,000 ポンドへと倍増した。とくにオーストラリアやカナダの子会社の売上げが利益増に大きく貢献しているが、これには相次ぐポンド相場の下落がかなり影響している模様である。

Pitman Ltd. は、1976 年 3 月 31 日に終った会計年度の報告を発表しているが、これもなかなか好調である。売上げ高は前年の 15.1 百万ポンドから 18.6 百万ポンドに上昇し、課税前利益は前年の 336,000 ポンドに比し 841,000 ポンドと飛躍的に増大している。教育訓練部門と出版部門がとくに好調で、印刷部門はやや不振とのことである。出版部門では、ロンドンの Pitman Publishing Ltd. が利益を 4 倍に、オーストラリアの Pitman Publishing Pty が利益を倍増したのが目立つ。Focal Press, Pitman Medical など好調である。

Routledge & Kegan Paul Ltd. の 1976 年 3 月 31 日に終った年度も結果は満足すべきものだったようである。売上げは前年の 2,053,740 ポンドから 2,532,978 ポンドへ、課税前利益は 141,078 ポンドから 241,736 ポンドへと大幅に上昇した。売り上げの増大のみならず、合理化によるコストダウン、在庫の削減などが好結果を生んだ模様である。

(The Bookseller, 9 月 11 日号および 10 月 2 日号より)

—— 紀伊國屋書店提供 ——

## 来日外人名簿

10月上旬 Mr. George Edwards, Sales Manager,  
Collier-Macmillan International

10月中旬 Mr. Nak Young Choung, Vice President,  
Addison-Wesley

〃 Mr. Frank W. Thompson, Manager, Univ.  
of Queensland Pr.

〃 Mr. Edward J. A. Marquis, Export Manager,  
Penguin Books

〃 Mr. D. J. Mortimer, Managing Director,  
Longmans, Green & Co.

〃 Mr. P. F. Clifford, English Language Teaching  
Division, Longmans, Green & Co.

10月下旬 Mr. Thomas Karger, President, Karger

10月下旬 Mr. Neil Ross, Director, International  
Marketing Dept., Pitman

〃 Mr. Roland Lam, Vice President, Litton  
Educational

## 事務所移転ご案内

今般次の通知がありましたのでお手許の会員名簿の訂正をお願い致します。

㈱ 大 阪 洋 書

新住所 〒530 大阪市北区曽根崎上 4 — 10

大阪駅前 第 2 ビル 12 F

☎ 06 — 346 — 0 5 4 6

## 通 関 統 計

外国貿易概況 (大蔵省関税局編、日本関税協会発行)

1976 年 7 月号所載。

書籍、新聞、雑誌の輸入額。

昭和 51 年 7 月 \$80,19,000 1 月以降累計 \$52,352,000

昭和 50 年 7 月 \$8,665,000 〃 \$59,774,000

(註) この統計は、C I F 価格で 10 万円以下の少額貨物は含まない。

## 総代理店ご案内

次の通り日本総代理店の案内がございました。  
お手許の Agent List にご記入願います。

丸 善 ㈱ ☎ 272-7211

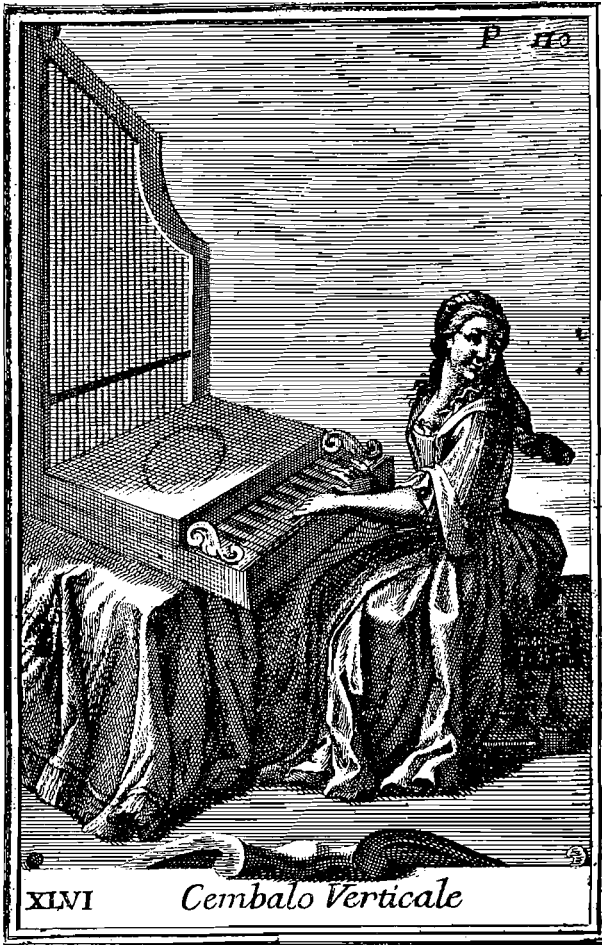
Longman Modern English Dictionary. Ed. by  
O. Watson. '76. 16×24cm., 1364 p. (Longman)  
¥4,180

(株) ジャパン・イングリッシュ・サービス ☎ 04757-2-6130

Granada Publishing  
Panther (Fiction & Non-Fiction)  
Mayflower (Fiction & Non-Fiction)  
Paladin (Non-Fiction)  
Dragon (Children's Books)



ZENTRALANTIQUARIAT DER DDR  
REPRINTABTEILUNG / MUSIK



\* 1977年度出版予定。  
\* 御予約承ります。

日本総代理店

アカデミア・ミュージック株式会社

ABBATE, Carlo  
Regulae contrapuncti excerptae ex operibus  
Zerlini et aliorum ad breviorum  
tyronum instructionem accomodate  
St. Oslowan 1629. Ln. 4,800

ANKERMANN, Bernhard  
Die afrikanischen Musikinstrumente.  
Berlin 1901. (Ethnologisches Notiz-  
blatt III, 1). Ganzleinen 8,000

ENCHIRIRI(sic) dion  
geistlicher Gesenge und Psalmen für die  
Leyen, mit vielandern, denn zuvor  
gebessert. 1528 Ganzleinen 7,200

FINK, Gottfried Wilhelm  
Wesen und Geschichte der Oper.  
Leipzig 1838 Ganzleinen 10,560

GOLDSCHMIDT, Hugo  
Die Italienische Gesangsmethod des XVII.  
Jahrhunderts und ihre Bedeutung für  
die Gegenwart dargestellt und erläutert.  
Breslau 1892. Ganzleinen 8,000

GRÜBER, Johann Siegmund  
Litteratur der Musik oder systematische  
Anleitung zur Kenntniss der vorzüglichen  
musikalischen Bücher. 2. Auflage.  
Frankfurt u. Leipzig 1792. Ln. 7,200

HOFFMANN, Jphan Leonhard  
Versuch einer Geschichte der  
malerischen Harmonie überhaupt und  
der Farbenharmonie insbesondere.  
Halle 1786. Ganzleinen 6,720

MARXER, Otto  
Zur spätmittelalterlichen Choral-  
geschichte. St. Gallen 1908 Ln. 11,520

PALMER, Christian  
Evangelische Hymnologie.  
Stuttgart 1865. Ganzleinen 12,000

PEISER, Carl  
Johann Adam Hiller. Ein Beitrag zur  
Musikgeschichte des 18. Jahrhunderts.  
Leipzig 1894. Ganzleinen 5,600

SCHEIBE, Johann Adolph  
Abhandlung vom Ursprunge und Alter  
der Musik, .. Altona und Flensburg  
1754. Ganzleinen 9,600

SCHLICK, Arnolt  
Tabulaturen etlicher lobgesang und  
lidlein uff die orgeln un lauten.  
Mainz 1512 Ganzleinen 6,720

〒113 東京都文京区本郷2-26-11  
電話 813-6751(代) 振替東京9-180340

昭和51年11月 通巻第115号 洋書輸入協会 編集者 寺久保一重

☎ 103 東京都中央区日本橋1丁目20番3号 藍沢ビル 302号室 ☎ 271-6901

☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田町28 第一山中ビル ☎ 371-5329